



井戸ばた会議

3月号の★募集テーマから

ヘルパーさん ありがとう



いつも相手の立場に立って、ケアをしてくれるヘルパーさん。生活に伴走しているからこそその気づきは、さすがと感嘆することばかり。救急搬送の時、栄養のケアでも活躍しているんですね！ (編集部)

救急隊員も 助けられています

神奈川県 板倉弘一さん 62歳

市の消防署で働いています。ここ数年、認知症の人が救急搬送されたり、同居家族が認知症だったりする頻度が増えています。

数年前、ヘルパーの機転で老々介護の家族を救ったケースがありまし

た。80代の妻が、同年代の認知症の夫を介護していました。ある朝、ヘルパーが訪問すると、妻が倒れていました。ヘルパーはすぐに119番通報し、救急隊が駆けつけました。隊員が状況を確認すると、脳こうそくの疑い。すぐに搬送しなければなりません。認知症の夫が一人になってしまいます。家族として入院の

手続きも必要です。そこで「私が夫を連れて、同行します」とヘルパー。聞けば夫は徘徊があり、一人にはできないということ。搬送中は、ヘルパーが夫に声をかけてくれていたので、落ち着いた状態で向かうことができました。妻は中程度の脳こうそく。搬送が遅れていけば、危ないところでした。

投稿用紙のご利用 (p.43、もしくはホームページから投稿) で、掲載された方には、**1,000円の図書カード**を差し上げます。



何気ない仕草を 見逃さないプロ意識

北海道 渡部良仁 40代

利用者さんが時々お腹をさすっていることに気づき、病院へ連れて行ったところ、腸に腫瘍が見つかりました。重症化する前に入院することができました。一見見過ごしてしまっているなど感謝しきりです。

生活援助で買い物に同行するときも、自分で買い物できるようつき合ったり、お店で転ばないように気配りしたりと本当によくやってくれると思います。

認知症の人だと、生活援助で1日数回入ることもあります。毎日かか

わっているからこそ気づけることもあると感じています。

家庭でできる 腎臓病食にも対応

千葉県 清水直実 54歳

以前働いていた事業所の近くに、人工透析を行うクリニックがありました。そこに所属する管理栄養士が年に数回、ヘルパーを対象に、糖尿病食や腎臓病食の作り方に関する勉強会を開いていて、そこで学んだヘルパーが地域で活躍していました。

例えば、腎臓病の人は塩分やタンパク質の制限が必要です。あるヘルパーは、タンパク質をほとんど含ま

ないマヨネーズを使ってチャーハンを作っていました。肉がなくてもコクが出て、なるほどと思いました。

また独居の人には、栄養に配慮したお惣菜の選び方を教えてくれたりと、きめ細かい支援にはずいぶん助けられました。

以前に比べて ゆっくり話す時間が減った

東京都 酒井健介 37歳

利用者の様子を月1回しか見ていないケアマネジャーでは気づけないことに、ヘルパーさんは気づいてくれます。

服薬できていると思っていた利用

